

交通流シミュレーション標準化ワークショップ (WS3+WG5)

「これまでの経緯説明」

▶ Contents

- ◆ 動機づけとしての問題意識
- ◆ WS3とWG5の活動経緯
- ◆ シミュレーション標準化の概念
- ◆ シミュレーションの標準開発プロセス

WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)

WS3の活動経緯

▶ シミュレーション実用化促進WS (土木学会)

- ◆ 1997年より活動開始。赤羽委員長ほか10数名のメンバー。
- ◆ 1996年から4回の土木計画学SS「シミュレーションの標準化」を通し、課題の整理、標準化の方針、進め方などを提案。
- ◆ 1998年に科研費を取得。
- ◆ 1999年よりWG5と合流。
- ◆ 2000年1月のワンデーセミナーで、成果の発表。

WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)

問題意識～シミュレーションの普及を阻む要因

▶ シミュレーションロジックのブラックボックス化

- ◆ 交通現象に対するモデル挙動の定量的な性質がわからないため、利用者が目的に適したツールを選ぶことができない。

▶ モデルパラメータ設定の根拠が薄い

- ◆ 設定によって結果が大きく異なる。

▶ 入力データ獲得が困難

- ◆ 入力データの精度が出力指標の信頼性に与える影響が大きい。

▶ 出力指標の信頼性が得られない

- ◆ 入力データの誤差、モデルパラメータの感度に影響される。
- ◆ 同じ条件でもツールによって答えが違う。

WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)

WG5の活動経緯

▶ 「道路利用の情報化・効率化」小委員会(土木学会) での「評価ツールWG」

- ◆ 1999年より活動開始。桑原委員長ほか20数名のメンバー。モデル開発者、利用者がメンバーに含まれている。
- ◆ WS3での議論を受け、シミュレーションモデル標準化を推進する場として活動。
- ◆ シミュレーション標準化マニュアルの作成。
- ◆ 各種シミュレーションモデルの比較評価。
- ◆ クリアリングハウス運用方針の検討。
- ◆ 2000年1月のワンデーセミナーで成果を発表。

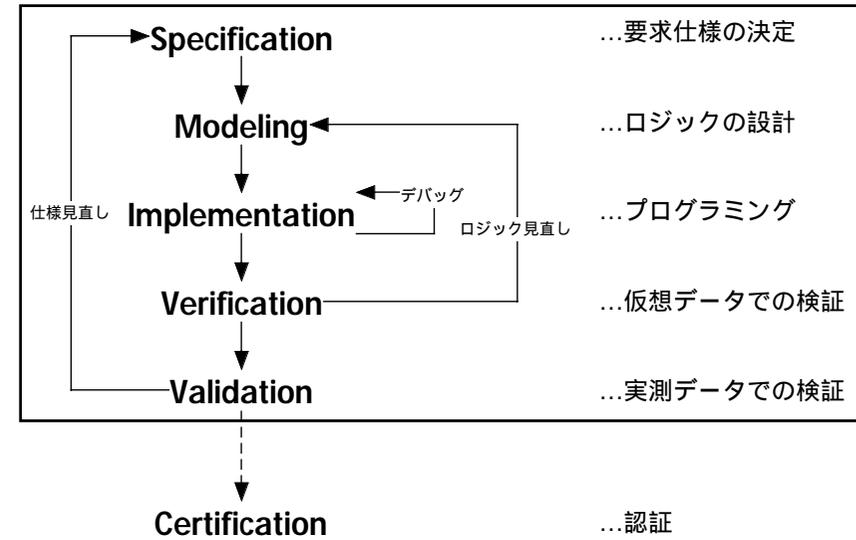
WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)

シミュレーション標準化のフィロソフィー

- ▶ モデルの入出力の定量的な関係を明らかにし，適用範囲（の限界）を示すことで，第三者がモデルを適切に評価できる判断材料を提供する．
 - ◆ ロジックやアルゴリズムを統一する類の強い標準化ではない．
- ▶ その際の具体的な手順を規定し，異なるモデルを共通の土俵で比較できるようにする．
 - ◆ モデルの優劣を決めるのではなく，守備範囲の違いを明確にすることを目的とする．

WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)

シミュレーションの標準開発プロセス



WG5+WS3 仙台・作並ミーティング (1999.11)